

生命の海プロジェクト®

ニチレイフーズでは、株式会社福岡魚市場および天草漁業協同組合と協同して、芝えびの販売を通して、アマモ場の再生活動を行っております。

01 アマモ場を再生する活動の推進

2022年：『生命(いのち)の海プロジェクト』を発足。
株式会社福岡魚市場および天草漁業協同組合と協同し有明海でアマモ場の再生活動を行っています。このプロジェクトによる豊かな海の再生を通して、水産物の持続可能な調達を実現します。

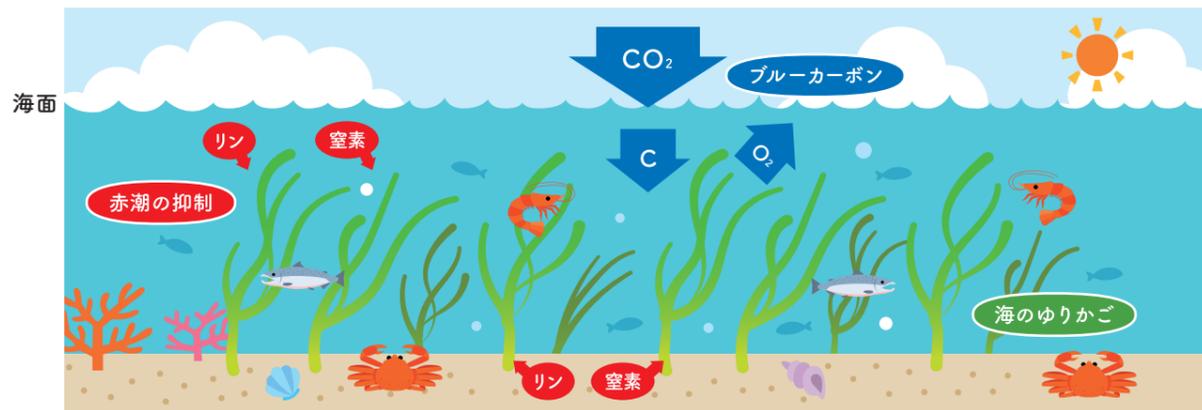
02 アマモとは

アマモ（甘藨 *Zostera marina*）は、北半球の温帯から亜寒帯にかけての水深が比較的浅い沿岸砂泥地に自生する海草の一種で、日本では北海道から沖縄まで全国各地に分布しています。アマモは一度陸上で適応した種が再度海水中で繁殖ができるようになった種と言われています。そのためコンブやワカメなどの海藻とは違い、種子を生成し繁殖を行います。
また、アマモの生育には水質や砂泥質の底質が清浄であることなど、様々な条件が必要なため、海岸の指標生物ともされています。
このアマモがたくさん生えている場所はアマモ場と呼ばれており、アマモ場は海の環境を豊かにするために非常に重要な役割を果たしています。



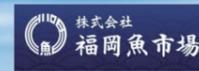
03 アマモの役割

- ・海のゆりかご
小さな魚介類が外敵から身を隠すための隠れ家となることや様々な生物の産卵場の役割も果たしており、「海のゆりかご」とも呼ばれています。
- ・赤潮の抑制
河川から流れてくる排水には窒素やリンなどプランクトンの餌となる栄養塩が多く含まれています。これらが過剰になるとプランクトンが大量に増殖し赤潮が発生します。アマモは光合成の過程で海中から栄養塩を吸収することができます。その活動がプランクトンの過剰増殖を防ぎ、赤潮を抑制することにも繋がっています。
- ・ブルーカーボン
アマモは光合成により海水・空気中の両方から二酸化炭素を吸収し、酸素を供給しています。この様に海洋生物の働きにより海洋環境に吸収・貯蓄された炭素をブルーカーボンと呼んでいます。この仕組みにより大気中の二酸化炭素を減らすことができ、地球温暖化の抑制にも繋がっています。アマモなどの海洋植物は炭素を多く吸収し、死滅後も炭素固定を長期間行うことができるため近年有効な温暖化対策として注目を集めています。



いのちのうみプロジェクト 生命の海プロジェクト

本プロジェクトは株式会社ニチレイフーズ、株式会社福岡魚市場および天草漁業協同組合と協同し、熊本県上天草市で水揚げされた芝えびの販売収益の一部を資金とするアマモ場再生活動です。



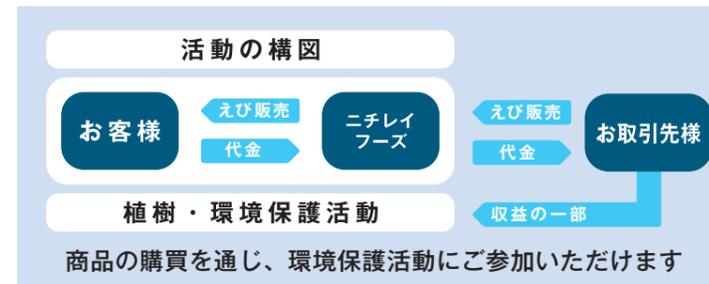
04 アマモの現状

近年、海洋汚染や台風などによりアマモなどの海洋植物が減少し、生物の住めない海の砂漠化が進んでいます。このような状況において当社はアマモに注目しました。アマモの植樹を通して豊かな海の再生、地球環境の改善を行い、水産物の持続可能な調達の実現を目指します。



05 プロジェクトの仕組み

ニチレイフレッシュでは、株式会社福岡魚市場および天草漁業協同組合と協同して、「アマモ基金」を設立いたしました。調達金額の一部をアマモ基金として毎年出資し、環境保護・再生事業に活用してまいります。



06 地域社会への貢献と共生

2023年度より『生命(いのち)の海プロジェクト』としては地域、市民と協同してアマモ場の再生活動を広げてまいります。更に上天草市役所教育委員会と連携して地元の小中学生にもアマモ場の再生活動に参加して頂き、アマモ場の再生活動の一連の体験をする機会を設けます。



07 対象商品

熊本県上天草市で水揚げされた天然芝えび

【有頭殻付き】



【むきえび】



©2010 熊本県くまモン #K32003



調理例



調理例